

2/16 「2021B&GPR大賞まちレポの部」で優秀賞を受賞

全国のB&G海洋センター・クラブが地域の魅力を発信する取り組みをB&G財団が表彰する「2021B&GPR大賞」が行われ、SNS投稿で活動を伝える「まちレポの部」において御荘B&G海洋センターの投稿記事が優秀賞に選ばれ、愛媛県内で初の入賞を果たしました。

2021年度は3部門に5,067点の応募があり、1月20日(木)に俳優の岸ユキさんや中江有里さんら有識者で構成される審査委員会により入賞作品が決定されました。

受賞記事は「B&Gオタッシャ教室」に参加した高齢者が御荘湾でカヌーや水上バイクを楽しみ、指導補助で教室OBの高齢者が頑張る姿をレポートしたものです。

※記事はFacebookのまちレポ【四国版】をご覧ください。



▲賞状と景品を持つB&Gマスコットキャラクターのアンドリー



愛南町
ホームページ

3/3 令和3年度第2回愛南町文化財保護審議会

愛南町文化財保護審議会が開かれ、猿越城という戦国時代の山城で調査が行われました。この城は、増田と広見にかけての山の中にあり、しっかりした防御施設が今でも残っています。委員からは、「石垣がある城とは異なる姿の城があることが分かった」「堀や平場が良好に残っている」という意見が出ました。

高田義隆委員長は、「戦国時代の立派な山城が一本松にはあり、他所の山城に引けを取らない規模なので、文化財として大事にしていってほしい」と話しました。



▲山城調査を行う委員

「令和3年度愛南町スポーツ協会表彰」受賞

令和3年度にスポーツの各種目において優秀な成績を収めた個人20人・3団体(32人)が、愛南町スポーツ協会から表彰を受けました。

この表彰は、愛南町のスポーツ振興に顕著な功績があった個人および団体を表彰してその榮譽をたたえるとともに、町のスポーツ活動の発展に資することを目的に平成20年度から実施されています。

表彰種類	種目	氏名・所属 (学校・学年)
優秀団体賞	剣道	城辺中学校男子剣道部
	相撲	御荘中学校相撲部
	軟式野球	N・Sクラブ 山本 徹、池田 海斗、中田 翔、山木 聖太、 河添 顕斗、徳永 一真、清家 直人、 松浦 慎、下田 剛、末光 立樹、竹川 翔汰、 竹本 淳、増崎 敬明、松浦 涼太、 山下 祥平、宮下 魁伸、好岡 駿、山木 穰、 古用 一平、二宮 亮輔、高岡 康祐
特別表彰 (優秀選手賞)	陸上	南宇和高3年
	相撲	南宇和高2年

表彰種類	種目	氏名	所属 (学校・学年)
優秀選手賞	ソフトテニス		篠山中3年
			篠山中3年
			篠山中1年
			篠山中1年
			篠山小6年
			宿毛市立咸陽小6年
			篠山小5年
			篠山小5年
	陸上		一本松小5年
			城辺中3年
			御荘中3年
	相撲		柏小6年
			御荘中3年
			御荘中2年
		城辺小6年	
ゴルフ	グラウンド・		平城小4年
			平城小2年
		山口 英子	愛南町グラウンド・ゴルフ協会

発見130周年を迎えた平城貝塚

平城貝塚について

平城貝塚は、明治24(1891)年8月に発見され、令和3年8月で発見130周年を迎えました。

この明治24年という年は、明治10年に日本で最初に発見された東京都大森貝塚の発見からわずか14年後であり、平城貝塚は大森貝塚と同じくかなり古い時代に発見された遺跡です。

貝塚は、縄文人が食べた貝の殻などが積み重なった生活の痕跡です。貝殻に含まれるカルシウムのおかげで、他の遺跡では見つけることが難しい動物の骨や、埋葬された縄文人の骨などが良好に残されています。

日本全国の縄文遺跡は94,729遺跡ありますが、その内縄文貝塚は2,443遺跡です。西日本の縄文貝塚は419遺跡で、瀬戸内海中部と有明海沿岸に集中しています。太平洋側のものは14遺跡で、東日本とは対照的に極めて少なく、それらの中に平城貝塚と肩を並べるものは一つもありません。

このことから、平城貝塚は太平洋側にある縄文貝塚の西日本代表と言えます。愛南町にはこのような重要な遺跡があります。



▲ 周知の埋蔵文化財包蔵地「平城貝塚」の登録範囲(令和3年4月時点)

調査で出土した土器や縄文人の人骨について

平城貝塚から出土した土器は『平城式土器』と呼ばれており、“平城貝塚独特の土器”として考古学者の間で知られています。

平城Ⅰ式土器は、模様を縄文がある部分と無い部分に分けており、平城貝塚よりも古い時期からの伝統を守っています。

平城Ⅱ式土器は、口縁部に際立つ文様を施しており、この意匠は平城縄文人が生み出したものであると考えられます。

また、現在までの調査で14体の縄文人が埋葬されていたことが分かっています。最も研究が進んでいるのは10代半ばの女性で、骨を分析した結果、確実に縄文時代に生きた人類であり、海産物を多く食べていたことや母系の系統が南の方にあることが分かりました。



▲平城Ⅰ式土器



▲平城Ⅱ式土器



▲平城交流センターの平城貝塚展示室に展示されている縄文人の人骨

今後について

平城貝塚は年代測定の結果、少なくとも240年にわたって営まれたことが分かっています。

また、約12,000年前の土器が出土しているだけでなく、生息域が異なる貝で成り立っている個性的な貝塚が確認できています。

まだまだ眠っている情報が多いことが予想できるため、未来にわたって大事に平城貝塚を保護していきます。

◀ 令和3年に“平城貝塚発見130周年”を迎えたことを記念してパンフレットを作成しました。興味のある方は生涯学習課(電話：73-1112)にお問い合わせください。



愛南町
ホーム
ページ

